



建学の精神

東北学院の三校祖、押川方義、W・E・ホーイ、D・B・シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の精神に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとしました。

その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の進展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものです。



東北学院 校章・マーク
1902年（明治35）シュネーダー院長の基本案を、図画教師小泉成一がデザインしたものの。現在に至るまで、伝統的なシンボルとして用いられています。

学校法人 東北学院

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL : 022-264-6464 FAX : 022-264-6458



創立

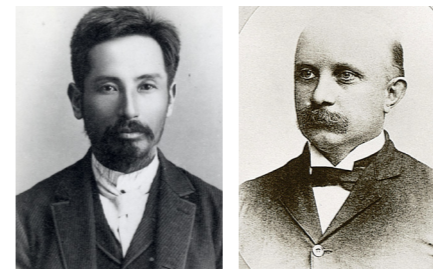
東北学院大学の創立は、私塾〈仙台神学校〉が開校された1886年（明治19）にさかのぼります。

19世紀はキリスト教の各教派が競うようにアジア・アフリカに宣教師を派遣し、伝道活動を開始した時代でした。1879年（明治12）にはドイツ改革派教会から日本へ最初の宣教師が派遣され、東京を中心にキリスト教の伝道が始まりました。そして1885年（明治18）12月、教派三人目の宣教師としてW・E・ホーイが来日します。

一方、このころすでに日本にもプロテスタントのキリスト教が根を下ろし始めていました。横浜、熊本、札幌などに有力な伝道の拠点が形成され、日本のキリスト教伝道を担う人材が多数生み出されます。その一人が、旧・伊予松山藩士の押川方義です。押川は1872年（明治5）、キリスト教がまだ禁令のもとにある中で洗礼を受け、日本で最初のプロテスタント教会の一員となっています。

その押川が活動の拠点を東北に移したのは1880年（明治13）のことです。押川が仙台を中心に熱心な伝道を続けていたときに、先述の宣教師 ホーイが来日するのです。かねて宣教師の来援を願っていた押川は来日したばかりのホーイと出会い、協力の約束を取りつけます。アメリカからやってきたホーイのもとには新しい知識を求める青年が集まりました。そして1886年（明治19）5月、6名の伝道者志望者を学生として、木町通りと北六番丁角の借家で私塾が開かれます。これが、東北学院の第一歩となる仙台神学校の誕生です。

また、この年二人の女性宣教師が仙台に着任し、押川やホーイらの協力によって設立されたのが、仙台で最初的女子教育機関である宮城女学院、現在の宮城学院です。



三校祖 左から、初代院長 押川方義(1852~1928年)
初代副院長 William Edwin Hoy(1858~1927年)
第2代院長 David Bowman Schneder(1852~1928年)



創立の背景と歴史

仙台神学校開校の翌年末には、D・B・シュネーダー夫妻が来日し、東北学院の〈三校祖〉と呼ばれる押川、ホーイ、シュネーダーの三人が顔を合わせました。

1891年（明治24）には東北学院と改称され、普通・高等教育を行なうようになりました。南町通りの校地に赤レンガ造りの校舎を新築。島崎藤村が作文教師として着任したのもこのころのことです。東北伝道に力を尽くし、東北学院の礎を築いた押川とホーイが仙台を離れると、シュネーダーが第2代院長に就任し、東北学院発展の基盤をつくる学制刷新を次々と実行します。

1905年（明治38）には東二番丁に普通科校舎が完成し、翌年には寄宿舎も落成。東北学院の母体ともいえるべき仙台教会は1901年（明治34）秋に、壮麗な新会堂を建設し、東北伝道の中心的役割を果たしました。

そんな矢先、1919年（大正8）仙台は大火に襲われ、中学部の校舎と寄宿舎が全焼。悲嘆の中、シュネーダー院長は自ら先頭に立って再建に奔走し、3年後には新しい校舎を落成するに至りました。新校舎の正面には「LIFE LIGHT LOVE」の文字。この三つの言葉は、その後、東北学院の精神的シンボルとして親しまれ、今日に至っています。

大正末から昭和には、東北学院の卒業生は1000名を越え、教育・伝道・官界・実業界など各界で活躍するようになっていました。大正デモクラシーの時代には、牧師で日本農民組合（日農）を創設した杉山元治郎（1885~1964年）や日本社会党の結成にかかわった法学者で弁護士の鈴木義男（1894~1963年）といった卒業生を輩出しています。

しかし1929年（昭和4）の世界大恐慌後、全世界に経済不況の嵐が吹き荒れ、東北学院はかつてない財政難に直面します。また、日本は軍国主義へと急速に傾き、学生・生徒には軍事教練が課され、キリスト教学校にさえも軍人の教官が配属されるようになりました。こうして時代は、満州事変の勃発（1931年）、日支事変への拡大（1937年）、第二次世界大戦へと戦争になだれ込んでいきました。

1936年（昭和11）に迎えた創立50周年では、80歳の老院長シュネーダーの「我は福音を恥とせず」と題する説教が、NHKを通じて全国に放送され、深い感銘を残しました。それはどのような時代であっても、建学の精神たるキリストの福音を守り通そうとする祈りの表われでもありました。

戦局が厳しさを増した1945年（昭和20）7月10日、仙台空襲によって南六軒丁の専門部、東二番丁の中学部の建物が失われ、全院は失意に包まれました。

しかし終戦後、平和と民主主義を軸とする新しい教育理念にのっとり、東北学院は急速な復興を成し遂げます。新制中学校・高等学校及び、文経学部の新制大学を設置し、すぐれた教職員の獲得や校舎や校地・諸施設の補修、拡張、新築が進められ、大学・高校・中学校とともに研究・教育機関として着々と陣容が整っていきました。

2001年（平成13）5月15日の創立記念日には、土樋キャンパスのラーハウザー記念礼拝堂地階に東北学院資料室が開設されました。仙台神学校時代から今日に至るまでの東北学院に関する歴史を将来に伝承するとともに、「建学の精神」に関連する資料を収集・保存・展示しています。